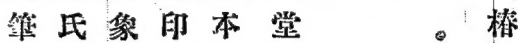


麻生久

[illegible]

政友會總務 小川平吉

[illegible]

陸軍省軍務局長 畑 英太郎

[illegible]

めなければならぬ、もし今日の如き状態

[illegible]

朝鮮國菜信託事務
平井熊三郎
國富の充實を圖り民力の基礎

[illegible]

京城



三越呉服店

電話本局一七三〇番

群山米穀商組合

大田木材商組合

加藤吉原富士明

木材材料材料材料

電話 三〇三番	電話 六四十一番	電話 二四九番	電話 一三一番
店	店	店	店

群山土曜會

大田驛前

儒城溫泉行
公州錦山

菊水自動車部

長電話三三〇番

京釜線大田

鳴鳳館

京釜線大田

內國通運大田取引店

同電五一八番

滿鐵(大田)

今泉茂松

河野喜一郎

永野廣治郎

中島庄三郎

金北堂

片相農場

馬里片桐和三

群山醫師會

群山貸座敷組合

群山協和會

群山大佛通り

群山正七郎引地寅治郎會

電話三二三番

大田土曜會

東洋拓殖株式會社大田支店
朝鮮殖産銀行大田支店
漢城銀行大田支店
大田電氣株式會社
大田金氣融組
懷德金融組
忠南無盡株式會社
大田運輸商事株式會社
忠清煙草元賣捌式會社

群山木曜會

小田 眞
林 尻
史
一

生方敏郎

り小豆などを湯を取つて喫服してゐたのだといふ。四日ばかりの病の場さんが、小僧を連れて病列に擔み廻り来る。筆端に於ける。

六日の曜（六）日と云ひ、七早を如に降せ更にそれを手帳に乘せて、神樂の館に掛へ、火焼をも懸へ、すりこぎと扇で叩きながら、居士の廟の曜を七曜（七）度限り繰る。それはいつも私の役目だつた。

東京へ歸つてから、何處でも斯ういふ奇行をするのを見ない。今も他になんない習慣を説くことにするとどうか。と思つて私は田舎の俗をなつかしむ。

近頃田舎も、お芝居に耽りすぎるのを止めて、宗教會合などやるといふ聞か、私はその止むには賛成である。斯ういふ心算であるのである。馳へる人々があるが、そんな心算は、一體なんの心算であるのであろう。賢い體裁なら何でも構はらずに、その交際の源頭と考へてゐるものであらう。

近頃は東京は西洋のリスマスを實に宗教的の儀式に見よさないで、一夜の一夜もクリスマスを慶び、親しい團體では有つアレエトの附屬なしなり、又料理屋でもクリスマスの裝飾を賑かに

[illegible]

じこになるのね。お婆だつて、
何だつて、皆な人になつてさ
ふんずける……いとかをうた
たふ。私秘……のロシア人よ
奴隷になたいわ」

「櫻庭から突然察した」

「だつて……君にだつて私秘の心は
かつたでござい。二階、三階たつ
も、私秘の足は少しも踏つてゐな
つたといふことが……欠けり私
秘の中に……居方つきるあなんんれんれん……
すもの……。でも、さびしいと
があらまふのよ。つくろひさび
くなつて、ひとりであることが
しくなつて、心離れて、いくく
かヤケになつてわるひんなか
ることがあるさうして……あ
さういへば、かういふことがあら
ます。それはさう……お婆の姿でし
ます。」

高濱虛子氏筆

小島德彌

[illegible][illegible][illegible]

戀の珠玉(二)
田山花袋


『それで、そのアツナといふ女
はこのハルピンにあるの?』
『どう?』
『ハルピンの同僚にや?』
『何でも知外ださうだが、キス
キヤといふところがあるかね?』
『あああ。』
『何處だ?』
『何處だ?それ?』
『此の隅ですね。遊藝民な



矢野 橋村 氏 筆 椿

田山花袋

「それ、そのア、さういふのはこのハルピンにゐるの？」
「さう——」
「ハルピンの問題？」
「何でも嫌だ、うた、エキスキヤといふところがあるかね？」
「あらわ」
「何處だ、それ？」
「川の畔ですわね。遠く、民な



朝鮮支店

電話
長長長
八八二六
七〇〇
〇〇三三
番

朝鮮電氣興業

株式會社

長電話
八三四四
九四四

平壤電氣株式會社

電話長五
六三六
四一七
一六

